



## 亀岡街道散歩 街道に残る時を巡る

新山ひろし

大阪高麗橋を基点とし、吹田・高槻方面に向かう古道を「亀岡街道」と呼ぶ。吹田では、神崎川の高浜と西国街道をつなぐ道であり「高槻街道」とも呼ばれてきた。武藤善一郎の名著『大阪の街道と道標』でも、吹田を通る亀岡街道は「高槻街道」という名で紹介されている。今回は「旧亀岡街道」とし、その吹田市の部分を歩いてみることにしたい。

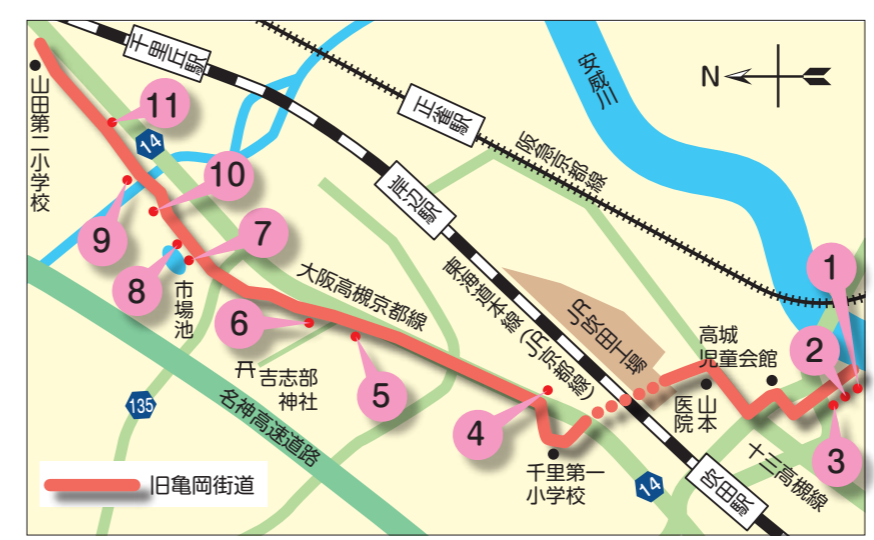
### 神崎川「吹田の渡し」から西国街道へ

まず、神崎川の「旧吹田の渡し」からスタートしよう。「撰津名所図会」には「ひとわたし」をくれて月に追いつかれ 風もりりん虫もりりん」とその風情を伝えている。ここから北へ歩き始めると、街道の面影を色濃く残す道が続く。かつては「青物市」が立ち「市場筋」とも呼ばれたという。この道を行き、大通りに出ると「六地藏道標」がある。道標の説明板には「明治11年に神崎川付替え工事があり、高浜橋が架けられると、この道標から南の亀岡街道は高浜神社前から高浜橋を渡って大阪へ通じる道に変わった」とある。

### 「北の口」から「天道」へ

六地藏から北へ、ここにも風情のある道が残っている。高浜神社の裏、この辺りは、かつては吹田の中心地だった。しばらくは、産業道路を左に見て歩くと、また、それを左に渡る。すると、一気に旧街道の風情が広がった。かつての五ヶ村（小路・七尾・東・南・吉志部村）を統合した旧「岸部村」に入ったのだ。その街角に五輪塔が建っている。ここは佐井寺観音への分かれ道、「観音道」を示す石塔である。そこから数分で、吉志部神社の参道に出た。この辺りは街道の中にも賑わいの中心だったようだ。例えば、茨木・高槻から材木を乗せた大八車を通ったり、大阪から「し尿」の汲み取りの車が来たりしたという。

「天道」からは「千里第一小学校」の右側に沿って、道なりに迷ったが、なんとか旧街道をキープしている。そして、また産業道路をまたぎ越し、旧道を右に向かう。「撰津名所図会」に登場する「名次宮」が見えてきた。地元では「なつげの宮」として、岸部村へ



### 市場池から山田川を越えて

さらに街道を東に行くと、正雀川を越える。市場池の手前で「小野原街道・山田街道」と亀岡街道が交差し、道標が建っている。市場池は高台にある池で、その堤が亀岡街道なのだ。さらに東へ向かい、山田川を渡ると、いい香りがしてきた。見れば、小粋な珈琲専門店、ちよつと一休みして、話をしたら、オーナーが地元の人で、亀岡街道にとても詳しい。「珍しい街道の石碑が、白井さんのところにあるよ」と電話の問い合わせまでしていただいた。「それじゃあ」と、市場池の方まで戻って白井さんを訪ねた。白井さんの池の庭の道標には「左・かちお寺・やまだ」「右・いばらき・そうじ寺」とある。「この道標は道路工事で捨てられて、放り出されてきた。とにかく守らな

んと思って」と白井さん。こういう人たちによって道標が守られてきたのだ。そこからまた、山田川を渡り、ひたすらに東へ歩く。しかし、少し疲れてきた。街道の旅は時を巡る旅なんだ

今回ももうこの辺で終わろうと思ったのだが、「香林坊」の方が言っていた「投げ出し墓」をどうしても見たい。その「投げ出し墓」は、須佐之男神社の築地塀の先にある大きな墓地で、その名の由来は「亡霊が墓地から街道に足を投げ出し、躓いた人が死ぬ」という言い伝えによる。どうやら、石山合戦の浄土真宗側の死者の霊を弔った「死屍谷（しかばねだに）」であるらしく、谷にあり、この辺りが真宗信仰のメッカであったことが伺われる。

- ① 神崎川に面した高浜・吹田の渡し跡
- ② かつては賑わいを見せた「市場筋」
- ③ 六地藏道標：この辺りも賑わいのエリア
- ④ 名次宮：天道から府道を越えた所に見える森の石を彫っている
- ⑤ 五輪塔の左が佐井寺、右側が亀岡街道。一つの石を彫っている
- ⑥ 吉志部神社参道：神社の参道が奥に見える
- ⑦ 市場池の道標
- ⑧ 市場池は豊かな水量がある丘の上の池。灌漑用に用いられた
- ⑨ 山田川を越す橋の向こうに珈琲の店「香林坊」がある。街道のオアシス
- ⑩ 白井家の庭の道標：「いばらき・そうじ」の方向を示している
- ⑪ 投げ出し墓

- 参考資料
- 「きりえさんば吹田・旧街道を行く」加賀真砂子著・吹田市長公室
- 「大阪の街道と道標」武藤善一郎著 サンライズ出版
- 「わかりやすい吹田の歴史・本文篇」吹田博物館
- その他、ネットの「亀岡街道」関係ホームページ
- 協力
- 香林坊：吹田市長野西 1-7 電話 06(6875)2660

さて、亀岡街道は、ここからJR千里丘駅の少し北のところまで産業道路に出る。ここから先亀岡街道は宇野辺で茨木市に入り、西国街道に抜けるのだが、今回は、この千里丘駅で亀岡街道の旅を終えることにした。今回は、実によく迷った。しかし、迷う事で、その土地の記憶、面影の袋小路のようなものに出会えたのかも知れない。廻り道、迷い道にこそ、時間の神が宿る、そういうことにしておこう。